

知の理論をひもとく - Unpacking TOK の作成

国際バカロレア (IB) プログラムは高校までの教育であるが、その教育理論と実践には大学教育においても学ぶべき点が多くある。特に、検証的思考力、多角的な視点、多様性を認める心を育成する「知の理論」(TOK: Theory of Knowledge) は、従来の日本の教育に欠如している学びの要素である。大学教育に TOK を取り入れることは、教育改革に大きく貢献すると考えられる。

しかしながら、高校までの教育で検証的に考える訓練を受けてきていない学生にとっては、TOK を取り入れた授業を提供しても理解が難しいであろう。近年数多くの TOK 解説書が出版され、文部科学省のホームページには TOK の授業案等の参考資料も掲載されているが、十分とは言えない。本書は、TOK についての解説書ではなく、実際に日常の社会問題などの状況を TOK 流に、多角的・検証的に考えるためにはどうすればよいのかを示そうとするものである。

執筆者は、IB 教育に力を入れている岡山大学と筑波大学の教員 3 名、IB の日本語 A の試験管であり高校で国語科を教える教諭と IB ディプロマ・プログラム (IBDP) 修了生である。本書は、それぞれの大学や高校の学生の活用を念頭に協働で作成することになった。IBDP を修了した執筆者は、体験者ならではの観点を盛り込んでいる。

本書作成にあたり、著者らはまず TOK に関する書籍や資料を読み、分析と協議を重ねた。「実生活の状況 (Real Life Situation)」から最終的に「知識に関する問い (Knowledge Question)」を作り出すまでのプロセスに関しては、それぞれの書籍や資料に様々な手順が紹介されている。著者らは、IB を体験したことのない (以下 non-IB) 学習者にとって理解しやすいと思われるプロセスを考え、提案している。また一般的な学習者にはわかりづらい IB 独自の用語も解説を加えた。

本書では、8 つの「知識の領域 (Areas of Knowledge)」のそれぞれに相当するテキスト (新聞記事など) を取り上げ、実生活の状況 (Real Life Situation)」を提示する。そのテキストから「知識に関する主張 (Knowledge Claim)」を指摘し、「知識の領域 (Areas of Knowledge)」を見定め、最終的に「知識に関する問い (Knowledge Question)」を導き出す。その後、この一連の「実生活の状況」から「知識に関する問い」までのプロセスを説明するスクリプトにまとめている。このスクリプトは、口頭プレゼンテーションの台本にあたるようなものである。

この本は、IB の TOK に準拠したものではあるが、IBDP の受験対策本ではない。non-IB 学習者が、TOK 流に、多角的・検証的に考える手助けを目指した。この本に示された例を理解することにより、読者が自分自身の「実生活の状況」について『『知識』』として提示された事柄をなぜ知っているかわかるのか **How do you know what you know?**』と問いかけ、思考するようになることが究極の目的である。主に大学生を対象としている、一般書としても読める。また日本語と英語の 2 言語で書かれているのもこの本の特徴である。なお、本書は、3 月中旬に脱稿し、4 月中旬に販売を開始する予定である。